

動議

チェルノヴェイルや福島で経験したように原発は人類社会に未曾有の惨害をもたらす。原発は事故の防止や運転の制御、廃棄物の処理など、また緊急時の社会の対応などにおいて、技術的にも倫理的にも叡智がおいついていない。

現下の原発は有機的つながりを根幹とする有機農業の理念と相容れず、その実績を根底から突き崩す。IFOAM は~~直ちに~~反・脱原発を強力に推し進めるとともに、再生可能エネルギーの普及・拡大をはからなければならない。

Rationale

核を開発してしまった人類はそれを使用する戦争やテロの脅威に常時怯えているし、平和利用と唱道された原発は、その莫大なエネルギーを生み出す効率性と裏腹に不確実性、非道徳性の故に世界の世論を二分してしまった。

日本が原発の再稼働、原発技術の輸出に向かおうとしている一方で、被災地の生産者はロクな補償も支援もないまま農地の再生に懸命な努力を続けている。

なかでも有機生産者は放射線の地中への閉じ込め（土壌の上下入れ替えや有機物投入による放射線物質の植物への移行低減）や各種除染で生産を続行しながら、帰還しないであろう子供、孫に思いをはせている。有機農業者は有機農業を軸に社会の変革を目指しているのであり、高い壁の向こうでうごめく原子力産業とはそもそも両立しない。